

2021 年度 事業計画書

2021 年 3 月 20 日(評議員会)

2021 年 3 月 20 日 (理 事 会)

学校法人 神戸学院

2021年度 予算編成方針

学校法人 神戸学院
理事長 西本 誠實

現在我が国では、人口減少・高齢化の進行、情報関係を始めとする技術革新やグローバル化の進展に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大が経済活動を始めとする社会活動全般に深刻な制限をもたらし、日常生活の在り方自体にも大きな影響を及ぼすに至っています。教育活動もその例外ではなく、人と人との交流に基づく多様な活動で成り立っている大学教育では、従来行ってきた集団での対面教育は感染症拡大の大きなリスクを伴うことから、オンライン授業を主体とした非対面手法に頼らざるを得ない状況に置かれています。このウイルスに有効なワクチンや治療薬の開発が、我が国そして世界規模での収束をもたらすまで、今後少なくとも数年以上の時間を要するとの見通しもあることから、来年度以降も大学は従来型の教育手法を全面的に見直すとともに、新たな教育手法や教育プログラムの導入に積極的に取り組むことが求められています。法人が設置する大学と附属中学校・高等学校のすべての教職員が努力を結集し、この困難な状況下にあってもすべての学生・生徒が十分な教育の機会を受け取り、本来抱いていた学修意欲を失うことなく、また将来への不安を抱えることのないよう、支援することが大切です。

本法人としては、大学そして附属中学校・高等学校が教育責任を十分に果たすことができるよう、財政面においても可能な限り支える方針です。そのためには、第一に収入源を確保することが重要であり、特に入学定員を維持・確保することは最大の要件であることに変更ありません。これに加えて、本法人に所属されるすべての教職員の方々が、日常的な活動の中で無駄なコストを極力削減するよう努力いただくことも、法人財政を支える大きな力となります。

大学そして附属中学校・高等学校が2020年度に予定していた事業は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって大きな影響を受け、中止あるいは延期を余儀なくされたものも数多くあると承知しております。今後もコロナ禍による影響が見通せない中で、2021年度の事業計画を練り上げ、そのための予算の組み立てを行うことは容易ではありません。このような状況下ではありますが、2021年度の予算編成を行うに当たって以下の3項目を重点事業と位置づけ、配分・編成を行います。

- ① 設置する学校の入学定員の確保に関する事業
- ② 新型コロナウイルス感染症と共存するために必要とされる教育環境整備に関する事業
- ③ 新型コロナウイルス感染症と共存するために必要な教育手法・教育プログラムの開発・実施に関する事業

なお、2021年度の決算目標値を経常収支差額比率5%以上、積立率65%以上とします。

以上

2021年度 予算編成概要について

【神戸学院大学】

神戸学院大学

学長 佐藤 雅美

2021年度予算書（案）は、法人の予算編成方針を受けて2020年9月17日の大学評議会で承認された「2021年度予算編成方針」に基づき、「大学として新たな将来計画を策定する中で、財政の健全化と財政基盤の強化を図るとともに、限られた財源を有効に配分すること」を目指し、基本方針を設定いたしました。また、事業計画は2017年度に受審した認証評価の結果を踏まえ、指摘事項を真摯に受け止めながら、内部質保証体制の確立にも努めてまいります。

2020年度は、世界的なコロナ禍の拡大により、教育現場を含め社会全体が新たな生活様式の模索へと進んでおり、これまでの常識では通用しない時代に入ったといえます。そのような中、前期はほとんどの授業が遠隔方式（オンライン授業）、後期は対面と遠隔の組み合わせによるハイブリッド形式の授業によって学びの継続を実現してきました。しかしながら、交換留学や長期留学などの国際交流はストップし、本学の特色である課外活動、ボランティア活動、社会貢献活動などは思うように活動することができませんでした。そのため2020年度予算編成においても2度にわたる補正予算を編成する必要が生じました。

2021年度は、「第2次中期行動計画（2018-2022）」がスタートして4年目にあたり、その計画の進捗状況について検証するとともに、目標達成に向けて邁進していかなければなりません。また、2017年12月に策定した「神戸学院大学キャンパス整備基本計画（2018-2028）」に基づく個々の計画についてもその実現に向けて具体的内容を検討し、実行していきます。この基本計画に基づき、ポートアイランドキャンパスについては、2019年9月にポートアイランド第2キャンパス（KPC2）が開設され、課外活動の新たな拠点、広報・社会連携の拠点、学生の未来センター、教職教育関係施設、神戸学院大学出版会事務室など、多様な機能が盛り込まれました。有瀬キャンパス（KAC）については、コロナ対応での財政状況も再確認しながら、基本計画の枠組みの中でニューノーマル時代にふさわしい教育施設の建設計画を進めていくこととなります。

本学においては、「学生が自らの成長を実感できる大学」であり続け、学生の「夢」の実現を支援することが大学の責務であるという思いから、教育環境の整備や教育力の向上に重点的に取り組みます。

【2021年度基本方針】

(教育)

三つのポリシーに基づき、学生の成長を促す教育を実践する。とりわけ教育のICT化を推進し、従来の対面授業と遠隔授業のハイブリッドな教育環境を充実させ、その環境を活かす教育を展開する。

(学生支援)

学生の成長を支える総合的な学生支援を実施する。

(研究)

多様で優れた学術研究を奨励し、その成果を広く社会に還元するとともに、地域と連携した特色ある研究の拠点形成を推進する。

(社会貢献)

地域連携、産学官連携の強化により、広く社会に貢献し、大学の社会的責任を果たす。

(大学運営)

学長のリーダーシップの下で、効率的で機動的な大学運営を行う。

神戸学院大学は、「学生が大きく成長する大学であること」「就職に強い大学であること」「地域連携活動が盛んな大学であること」「社会に貢献する研究成果が数多く発表される大学であること」を本学の「教育・研究の成果」としてアピールし、社会から信頼され必要とされる存在価値の高い大学を目指して着実に前進することが求められています。そして、志願者数の確保のために「受験生にとって魅力のある大学」でなければなりません。その内容を具体化したのが重点項目(2)～(7)であり、これらは神戸学院大学の使命です。この使命を実現する手段として財政的な裏付けが必要であり、そのために重点項目(1)を掲げています。

【重点項目の内容】

(1) 志願者数の確保に向けた募集力の強化

すべての学部・部署、すべての教職員がそれぞれの立場で、募集力の強化について考え、実行する必要があります。具体的には、本学の強みや魅力を集約しステークホルダーの目線で発信する戦略的広報の推進、高大接続の強化、入試制度の見直し等に取り組みます。また、高校生・保護者との接点として重要な役割を果たしているオープンキャンパスを充実させるとともに、学生のコミュニケーション力やプレゼンテーション力を高めることを目的として、年間を通してオープンキャンパス学生スタッフ（オーキャンズ）への研修を実施します。

(2) 学士力の向上と学位の質保証をめざした教育の充実

「教育の充実」なくして、学士力向上および学位の質保証はありません。グローバル・コミュニケーション学部の設置を機に、全学的な「国際化ビジョン」の推進を図ります。また、同時に、学生が「学ぶことの楽しさ」を感じるよう、授業（講義・演習・実験等）の充実を図るべく体系的教育システムの構築、「高大接続プログラム」の推進、アクティブ・ラーニングの拡充等、教育方法・教育成果を全学で共有し、教育の充実を促進します。

全学教育推進機構により教育の質的向上を全学的に推進し、文系・理系 10 学部を擁する文理総合大学としての強みを発揮して学生を育成します。さらに、学部横断型の教育プログラムとして、医療・健康・福祉・心理系 4 学部 6 学科の学生を対象に、資格専門職間の相互理解と協働をテーマにした「専門職連携教育プログラム (IPE)」をはじめ「神戸学院カレッジ」、「スポーツサイエンス・ユニット」の更なる充実を図ります。

また、「教育改革特別経費」によって、引き続き教育改革に積極的に取り組む教員に対し助成を行います。

大学院では、2019 年度に公認心理師に対応する心理学研究科を開設し、修士課程では学部のカリキュラムと合わせた新たな国家資格である公認心理師養成の教育システムが完成することになり、博士後期課程では心理学研究者や心理専門職指導者の養成にも対応していくこととなります。

(3) 学生のキャリア支援の推進

共通教育・専門教育と連動したキャリア教育の充実を図ります。学生の希望する卒業後の進路を実現するために、各種講座、ガイダンス体制・キャリアカウンセリング体制（既卒者含む）、各種セミナー、インターンシップ制度、企業訪問、就職支援協定等をさらに強化していきます。

(4) 学生の満足度を高めるための大学環境の整備・充実

教育環境の整備充実、食堂、体育施設、講義室の無線 LAN 設置、トイレ改修等、学生が日常の大学生活を送る環境、および課外活動を行う環境等をさらに充実させます。特に、2020 年度は、コロナ禍のため遠隔方式（オンライン授業）により授業を実施することになりましたが、本学の授業を運営するうえでネットワーク環境の脆弱性を改めて思い知らされました。2021 年度は対面形式を基本としますが、一部の授業は遠隔形式で実施し、対面授業においても LMS（学習支援システム）の活用がさらに推進されることとなります。そのため、ネットワーク環境や Wi-Fi の整備・増強、LMS の充実などを推進していく予定です。また、多様な問題を抱える学生への支援を目的として 2019 年度に開設した「学生の未来センター」では、退学防止という課題だけでなく、神戸市などと連携して若者支援という広い視野を持った取り組みを推進するための体制充実を図ります。

(5) 研究活動の活性化および外部資金の獲得

「教育の充実」を図るためには、研究活動の裏付けが必要です。学内研究費の効率的な活用のみならず、科学研究費等の外部資金を獲得するための支援を中心にして、外部資金を広く獲得できるよう取り組んでいきます。また、2020 年 11 月には本学の新たな研究・教育成果の発信拠点として「神戸学院大学出版会」を設立し、7 冊の書籍が公刊されました。2021 年度にも少なくとも数冊の研究書、テキストなどを発行できるように推進します。

(6) 産官学連携、地域連携および国際化の推進

教職員のみならず、学生も学外との交流により大きく成長します。大学として社会貢献および地域連携を重視します。

2017年度からスタートした総合型地域スポーツ・文化クラブの内容充実、「ボランティア活動支援室」を中心に展開する多様なボランティア活動、神戸マラソン応援プロジェクトなどの更なる充実を図ります。また、2019年度に開設した神戸三宮サテライト（ミント神戸17F）についてもその有効活用を推進していきます。

国際交流にも力を注ぎ、国際的視野に立つグローバル人材の育成をめざします。国際化の推進として、グローバル・コミュニケーション学部の Semester 留学先の開拓を通じて多くの海外の大学との協定が実現し、他学部や国際交流センターでも海外の大学や研究機関との連携の動きが活発化し、協定先が増大しています。今後重要課題として積極的に取り組んでいきます。

(7) 情報環境の整備

情報環境のいっそうの充実を図り、学内ネットワークの機器更新・維持管理と教員および学生が有効的に活用できるように事務システムの維持・充実を行っていきます。主には遠隔会議システムを活用し、コロナ禍においても機動的かつ安定的に対策会議や授業等を行える体制の構築に注力します。また、遠隔授業（オンライン授業）において問題視されている出版物等の著作物使用においても、授業目的公衆送信補償金制度を活用し、学生に対して対面授業と同質の授業が担保されるような体制の構築に取り組んでいきます。

本学は他の主要大学に比べると財政面では必ずしも盤石であるとは言えず、将来計画を考える上で財政基盤の強化が大きな課題です。2021年度においては、ニューノーマル時代にふさわしい情報インフラの整備等重要な事業を前倒しで行いますので、基本金組入前当年度収支差額は例年と比べて減少する見通しです。今後も事業計画の厳選や既存事業の見直し等を継続して、事業活動収支の改善を図り、重点事業への予算配分を充実させるなど、いっそうの経営努力を行っていかねばなりません。

以上のような概要を踏まえ、2021年度予算を編成いたしました。

2021 年度 予算編成概要について

【神戸学院大学附属中学校・高等学校】

神戸学院大学附属中学校・高等学校

校長 芦田 光巨

2016 年、ポートアイランドに高等学校新校舎を建設、移転し、2017 年には、中学校の開校と、学校法人の決断により教育環境が大きく改善されました。そして、2018 年度より実施している「第 2 次中期行動計画」は、基本方針を「建学の精神に基づき知・徳・体の調和のとれた主体的に生きる力を備え、社会に貢献できる人材を育成します」とし、改善された教育環境を十分に活用するように取りまとめました。そしてここに策定された中期行動計画の実施内容を見据えた 2021 年度予算を編成しました。

教育は様々な問題を抱えながらも、常に新たな仕組みや特色ある教育活動の展開が社会から求められています。さらなる少子化が進む中、公立学校では多様な教育の仕組みや入学選抜方法を取り入れており、生徒を確保することが、今までにも増して厳しくなっています。

本校ならではの特色ある私学教育を評価してもらうためには、常に変わり行く社会状況に応じた教育活動を念頭におき、時代にあった教育環境・教育方法を心がけ、効率的な予算執行をしていかなければなりません。

また 2017 年度から募集した中学生が高校 1・2 年次に在籍する中、本校の特色である中高大連携教育を推進する教育環境のあり方や教育方法のあり方を見据え、中学校・高等学校の更なる教育力の向上を図ります。そして、「生徒が行きたい学校・保護者が行かせたい学校」となり、大学と共に兵庫、神戸を代表する魅力ある学校となることを目指します。

移転後 5 年間は総じて高校の入学者を多数確保でき、中学も定員以上の生徒数の確保が達成できています。2020 年度の生徒数は、1,000 人を超える生徒数となりました。しかし、今後この状況を維持するには多くの新たな取り組みが必要となってきます。今まで取り組んできた教育活動の更なる充実や評価につながる仕組みをはじめ、教員の指導力向上につながる研修活動、本校を理解し評価していただく広報活動、そして、まだ最終的な完成には至っていない教育施設・設備への予算配分も考えておかなければなりません。

移転後の厳しい財務状況ではありますが、財政の健全化を図り、限られた財源を有効に配分することで、積極的で有効な投資となる予算を編成します。

2021年度の予算編成基本方針

(教育)

- (1) 進学実績の向上を考えた授業の充実、補習の実施、検定試験支援等、よりきめ細やかな教育活動を展開する。
- (2) 一人一台のタブレットによる ICT 教育をさらに推進し、アクティブラーニングの視点での授業改善につなげる。
- (3) さらなるネイティブ教員の活用、大学グローバル・コミュニケーション学部との連携、さらに海外教育機関との交流を活性化することにより、グローバル教育を推進する。
- (4) 中高大連携教育を推進する。従来の体験授業にとどまらない多面的な連携を組み立て、互いの教育活動の活性化につなげるとともに、探究授業における中高大連携の仕組みを完成させる。
- (5) 生徒の要望に応えることのできる施設の充実を図るとともに指導体制を点検し、課外活動を振興する。さらに中学校の課外活動の充実にも取り組み、高校の課外活動の活性化につなげる。
- (6) SSH 指定校に向け、高等学校を中心として、中学校も含めた理科教育の活性化につなげる。
- (7) 生徒の登下校の交通手段としてスクールバス利用者の増加を図るとともに、運行コースの再編をするなど財政的な負担を少なくする。

(研修)

- ・指導力、授業力の向上のため研修活動を活性化する。校内校外での研修に積極的に参加し、校内研修の活性化につなげる。

(広報)

- ・高校志願者数ならびに中学志願者数の安定した確保に向け、さらに広報活動を充実させる。また、効率的な広報のあり方を検討し実践する。

〔I〕事業活動収支予算について

※ 一万円未満は原則として四捨五入
 ※ 前年度は二次補正額を示す。

「事業活動収支計算書」は、当該年度の活動に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容を明らかにするとともに、基本金組入額を控除したすべての事業活動収入および事業活動支出の均衡状態を示すことで、経営状態の健全性を判断することができます。また、「経常収支」と「臨時収支」に区分して示すことで、法人としての経営状況をわかりやすくしています。

「経常収支」は、学校法人の本業となる教育研究活動に係る収支を示す「教育活動収支」と、資産運用等の財務活動や収益事業に係る活動の収支を示す「教育活動外収支」に分かれています。「臨時収支」は、資産売却差額、資産処分差額、施設設備に係る寄付金や補助金、現物寄付等を対象としており、「特別収支」として示しています。

なお、この計算書には学校法人会計特有の「基本金」に関する項目が含まれています。「基本金」は、学校法人会計基準第 29 条において、「学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その事業活動収入のうちから組み入れた金額を基本金とする」と規定されています。

2021 年度当初予算における事業活動収支見込は以下の通りです。

(単位：千円)

科目	2021 年度	2020 年度	増減
教育活動収支差額	16,300	△ 270,340	286,640
教育活動外収支差額	182,302	241,710	△ 59,408
経常収支差額	198,602	△ 28,630	227,232
特別収支差額	24,300	70,240	△ 45,940
基本金組入前当年度収支差額	146,402	△ 34,890	181,292
基本金組入額合計	△ 2,300,462	△ 2,309,071	8,609
事業活動収入 計	17,107,340	17,245,383	△ 138,043
事業活動支出 計	16,960,938	17,280,273	△ 319,335

科目	2021 年度	2020 年度
教育活動収支差額比率	0.1%	△1.6%
経常収支差額比率	1.2%	△0.1%
事業活動収支差額比率	0.9%	△0.2%

《教育活動収支について》

教育活動収支差額は前年度より 286,640 千円増の 16,300 千円を見込んでいます。
金額が大きい科目に関する説明は以下の通りです。

(事業活動収入の部)

・ 学生生徒等納付金 (13,926,749 千円)

学生数は前年度と比べ、大学では入学定員 (2,560 人) の 1.02 倍の新入生数を前提として 241 人減の 11,375 人 (大学院生含む)、高校では 300 人の入学者 (うち、内部進学予定者 67 人) を見込み 42 人増の 869 人、中学校では 70 人の入学者を見込み、4 人減の 208 人を見込んでいます。前年度より 37,320 千円 (0.3%) の減収見込となります。経常収入の 81.6%を占めています。

・ 手数料 (462,530 千円)

私立大学全体の定員厳格化に加え、コロナ禍における出願動向の変化もあり、入学者の確保は年々厳しさを増していますが、効果的な広報活動を展開して、受験生の確保を目指します。中高においては、例年並みの受験者数を見込んでいます。前年度より 32,700 千円 (6.6%) の減収見込となります。経常収入の 2.7%を占めています。

・ 寄付金 (75,000 千円)

前年度より 10,000 千円 (15.4%) の増収見込となります。経常収入の 0.4%を占めています。

・ 経常費等補助金 (2,068,036 千円)

大学における私立大学等経常費補助金として 1,024,635 千円、授業料等減免費交付金として 760,000 千円、中高における兵庫県私立学校経常費補助金として 275,000 千円等を見込んでいます。前年度より 142,577 千円 (7.4%) の増収見込となります。経常収入の 12.1%を占めています。

(事業活動支出の部)

・ 人件費 (8,922,347 千円)

前年度より 4,544 千円 (0.1%) の支出減を見込んでいます。なお、経常収入に占める割合 (=人件費比率) は、52.3%です。

・ 教育研究経費 (7,191,627 千円)

前年度より 253,672 千円 (3.4%) の支出減を見込んでいます。経常収入の 42.1%を占めています。なお、各部門における重点項目事業への予算配分については、11 ページから 15 ページに記載しています。

・管理経費（689,459千円）

前年度より46,523千円（6.3%）の支出減を見込んでいます。経常収入の4.0%を占めています。

《教育活動外収支について》

教育活動外収支差額は、前年度より59,408千円減の182,302千円を見込んでいます。各科目に関する説明は以下の通りです。

（事業活動収入の部）

・受取利息・配当金（252,307千円）

低金利の状況が続いていることから、高クーポンの債券を中心に早期償還が生じていることもあり、前年度と比較すると74,004千円（22.7%）の減収見込となっています。経常収入の1.5%を占めています。

（事業活動支出の部）

・借入金等利息（70,005千円）

前年度より14,596千円（17.3%）の支出減を見込んでいます。経常収入の0.4%を占めています。

《経常収支について》

教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合計した経常収支差額は、前年度より227,232千円増の198,602千円を見込んでいます。

《特別収支について》

特別収支差額は前年度より45,940千円減の24,300千円を見込んでいます。

〔Ⅱ〕おもな重点事業

◎印……新規・臨時事業（一部経常経費を含む事業あり）、○印……内容を充実した事業

【大学】

(千円)

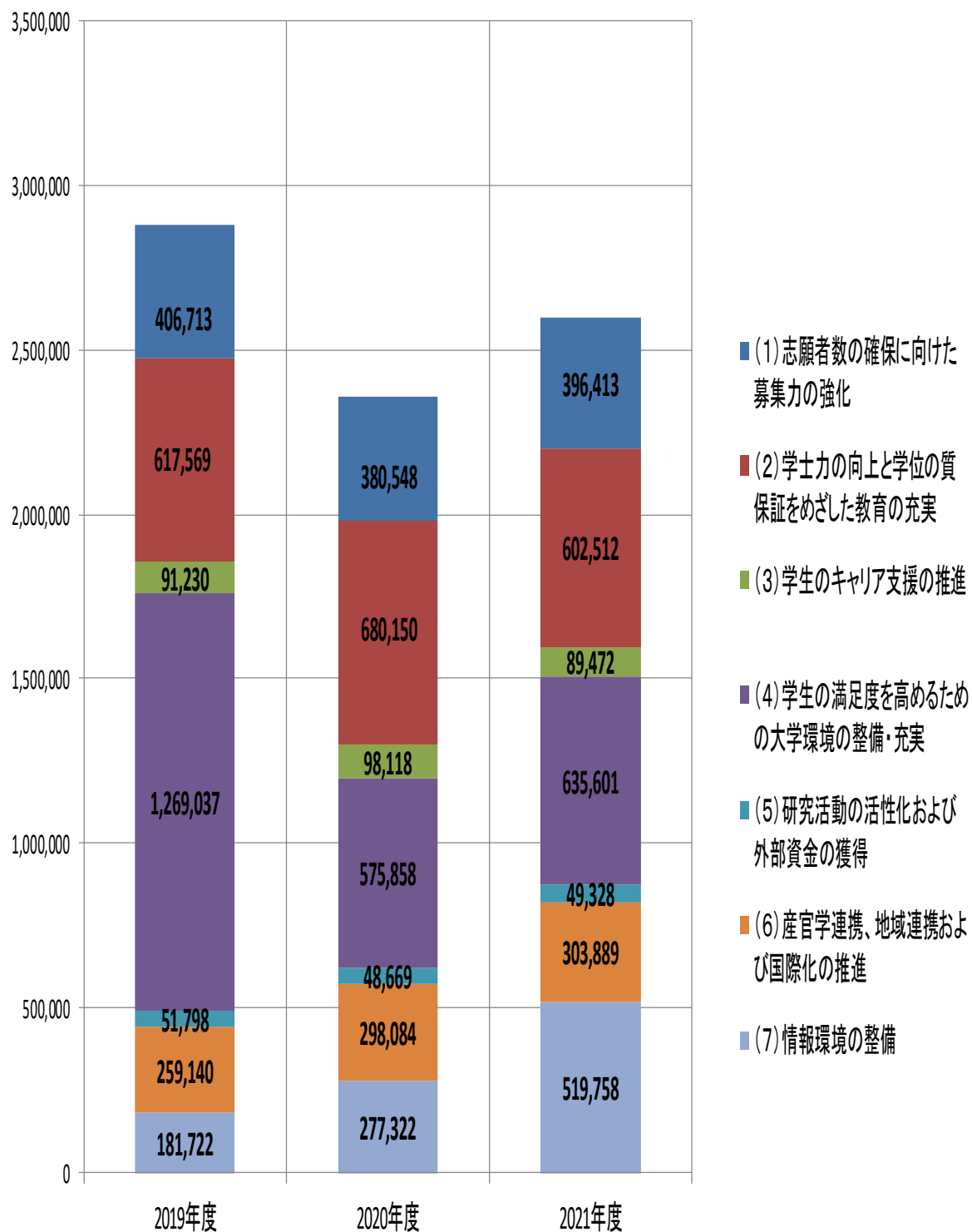
項目【総額】	内容	2021年度	2020年度
(1) 志願者数の確保に向けた募集力の強化 【396,413千円】	大学広報・入試広報	307,264	308,930
	①交通広告・学外メディアを活用した広報	197,433	196,633
	②大学案内・大学紹介刊行物発行	44,290	43,970
	③ホームページの充実	9,000	9,800
	④オープンキャンパス、入試説明会等の実施	31,860	32,496
	⑤学部広報誌作成・学部ウェブサイトの充実	24,681	26,031
	志願者増加対策	89,149	71,618
	①ネット出願システム・受験ポータルサイトの活用	19,714	23,763
	②ダイレクトメール等を活用した募集力強化	42,847	21,267
	③志願者動向調査システム	26,588	26,588
(2) 学士力の向上と学位の質保証をめざした教育の充実 【602,512千円】	ICT活用による「教育・学修環境」の整備	182,945	270,645
	①教材データベース・教育ソフトの充実	40,925	24,941
	② e-learningの充実・教材作成支援	25,089	25,362
	③情報処理実習室、自習室の維持管理・更新含む	116,931	220,342
	学部教育の充実	69,463	68,103
	①ゼミナール活性化およびアクティブラーニング含む教育システムの充実	49,947	50,647
	②教職教育センター	15,598	13,538
	③共通教育センター	3,918	3,918
	実験・実習体制の整備	252,185	247,732
	①心理学部実験実習費（人間心理学科含む）	10,294	10,297
	②現代社会学部実習関係費用	10,314	10,953
	③総合リハビリテーション学部学外実習関係費用	35,200	33,282
	④栄養学部学外実習関係費用	14,170	13,415
	⑤薬学部実習関係費用	182,207	179,785
	特色ある教育プログラム	30,258	30,711
	①スポーツサイエンス・ユニット	4,254	4,751
	②TKK学び合い連携事業	479	1,666
	③神戸学院カレッジ・English Plaza（い〜ぶら）	20,932	21,294
	○④専門職連携教育（IPE）	4,593	3,000
	初年次教育の充実	39,232	32,057
○①入学前教育・新入生基礎学力診断・初年次教育	34,039	26,418	
②新入生オリエンテーション・早期体験学習・ピアサポートの実施	3,399	3,545	
③初年次教育共通テキストおよび自校教育用教材の作成	1,794	2,094	
F D活動の推進	15,343	16,847	
①F D講演会等、F Dワークショップの開催	9,733	11,167	
②学生による授業改善アンケートの実施・分析	610	680	
③教育改革助成金	5,000	5,000	
大学院の充実	9,888	11,084	
①各研究科教育充実費	9,888	11,084	
教学マネジメント体制の構築	3,198	2,971	
①教学I R	3,198	2,971	
(3) 学生のキャリア支援の推進 【89,472千円】	キャリア支援の充実	55,170	63,816
	①キャリア教育の実施	26,265	33,587
	②ガイダンス・セミナーの実施	6,945	8,683
	③進路指導体制の充実	19,420	19,236
	④就業力講座の開講	1,834	1,604
	⑤インターンシップ	706	706
	課外講座事業	34,302	34,302
①課外講座の開講	34,302	34,302	

項目【総額】	内容	2021年度	2020年度
(4) 学生の満足度を高めるための大学環境の整備・充実 【635,601千円】	学内奨学金制度	174,250	185,118
	①学部支給奨学金制度	32,400	36,360
	②奨励金制度	64,070	63,580
	③大学院特別奨学金制度	10,660	10,660
	④大学院支給奨学金制度	1,200	2,100
	⑤特待生制度（未来サポート）	60,000	66,498
	⑥溝口奨励金制度	5,920	5,920
	シャトルバス運賃補助	49,193	49,193
	①シャトルバス運賃補助（KAC～KPC間）	49,193	49,193
	課外活動支援	203,987	192,532
	①課外活動・大学祭補助金	64,929	67,248
	○②指定クラブ重点強化制度	117,500	104,000
	③技術指導者指導料・顧問旅費	21,558	21,284
施設・設備の整備	201,961	142,515	
①教室・実習室の改修	54,000	53,669	
○②厚生施設の改修・整備	62,961	43,846	
③トイレの改修	10,000	10,000	
○④無線LAN・ネットワーク増設	75,000	35,000	
学生チャレンジプロジェクト・朝食補助	5,500	5,500	
①学生チャレンジプロジェクト	3,000	3,000	
②朝食補助	2,500	2,500	
退学防止および修学・就労支援プログラム	710	1,000	
①学生の未来センター	710	1,000	
(5) 研究活動の活性化および外部資金の獲得 【49,328千円】	研究支援制度の確立	47,664	47,005
	①共同研究助成金	12,480	11,821
	②健康科学研究助成金	2,500	2,500
	③学外研究員制度	20,700	20,700
	④研究成果発表支援（研究叢書援助金）	11,984	11,984
学術研究高度化推進（人件費除く）	1,664	1,664	
①地域研究センター	1,664	1,664	
(6) 産官学連携、地域連携および国際化の推進 【303,889千円】	産官学連携の推進（人件費除く）	1,825	1,825
	①知的財産管理体制の構築	1,825	1,825
	地域連携・生涯学習の推進	76,071	78,867
	①ボーアイ4大学連携推進事業	3,178	3,530
	②社会人キャリアアップ講座	1,427	1,675
	③グリーンフェスティバル・公開講座	8,946	9,363
	④市民交流および地域連携講座等連携事業	24,256	21,302
	⑤総合型地域スポーツ・文化クラブ	5,780	5,780
	⑥災害救援ボランティア支援	4,500	4,500
	⑦カウンセリングセンター	1,426	2,622
	○⑧神戸三宮サテライト運用	26,558	30,095
	国際交流の推進（人件費除く）	225,993	217,392
	①国外客員教授受入	15,668	15,967
	②私費外国人留学生授業料減免および奨学金制度	71,432	61,432
	③留学生の受入・派遣	32,784	36,105
	④短期海外研修	7,520	5,310
	⑤学部教育における国際化の推進	98,589	98,578
(7) 情報環境の整備 【519,758千円】	ネットワークシステムの構築・管理	507,859	240,778
	◎①学内ネットワークシステムの維持・管理	448,701	192,209
	②事務システムの維持・管理	59,158	48,569
	図書館情報化の推進	11,899	36,544
	①図書館システムの維持・管理	11,899	36,544
合 計		2,596,973	2,358,749

【計 2,596,973千円（事業活動収入対比 16.2%）】

(重点事業予算額の経年比較)

(単位：千円)



※いずれの年度も当初予算額で比較

【高校】

(千円)

項目【総額】	内容	2021年度	2020年度
(1) 社会性、協調性、国際感覚の教育 日常とは違う環境に身を置き様々な経験を積むことによって幅広い視野を養う 【12,428千円】	研修事業 ①短期語学研修 ②中期(1ヵ月)長期(3ヵ月)研修 ③海外修学旅行 ④宿泊研修・学習合宿等	12,428 580 4,876 5,965 1,007	10,405 590 3,956 4,800 1,059
(2) きめ細やかな教育 読解力の向上や、ipadを使ったアプリを使用することで本校の特色教育を推進 【2,000千円】	特色ある教育事業 ①速読英語・日本語トレーニングシステム	2,000 2,000	2,000 2,000
(3) 情報化社会への適応 めまぐるしく変化する情報化社会への対応力育成 【41,087千円】	ICT事業 ①生徒および職員に供するネットワーク等のシステム維持管理費用 ②ICTを活用した学習環境 ③職員が業務に供するPC等の維持管理費用	41,087 12,021 28,060 1,006	38,420 10,845 26,600 975
(4) 生徒の財政的負担の軽減 奨学金等による支援 【17,536千円】	校内奨学事業 ①溝口奨励金 ②森わさ奨学金 ③授業料減免 ④入学金等免除	17,536 4,566 4,566 2,244 6,160	21,700 4,350 4,350 1,650 11,350
(5) 教育環境の充実 スクールバスを利用した事業 【26,956千円】	スクールバス事業 ①生徒送迎費用	26,956 26,956	31,243 31,243
(6) 安定した募集定員の確保 広報活動全般 【20,115千円】	募集広告事業 ①広報活動費用 ②入試関係費用	20,115 17,235 2,880	21,370 18,990 2,380
合計		120,122	125,138

【計 120,122 千円 (事業活動収入対比 14.1%)】

【中学校】

(千円)

項目【総額】	内容	2021年度	2020年度
(1) 社会性、協調性、国際感覚の教育 日常とは違う環境に身を置き様々な経験を積むことによって幅広い視野を養う 【1,849千円】	研修事業 ①宿泊研修(1年) ②ネイチャーキャンプ(1年) ③サマーキャンプ(2年) ④修学旅行(3年)	1,849 231 256 507 855	1,847 234 256 507 850
(2) 情報化社会への適応 めまぐるしく変化する情報化社会への対応力育成 【9,784千円】	ICT事業 ①生徒および職員に供するネットワーク等のシステム維持管理費用 ②ICTを活用した学習環境 ③職員が業務に供するPC等の維持管理費用	9,784 2,363 7,170 251	9,240 2,119 6,850 271
(3) 生徒の財政的負担の軽減 奨学金等による支援 【2,682千円】	校内奨学事業 ①溝口奨励金 ②森わさ奨学金 ③授業料減免	2,682 1,098 1,098 486	2,250 900 900 450
(4) 教育環境の充実 スクールバスを利用した事業 【18,679千円】	スクールバス事業 ①生徒送迎費用	18,679 18,679	13,828 13,828
(5) 安定した募集定員の確保 広報活動全般 【8,006千円】	募集広告事業 ①広報活動費用 ②入試関係費用	8,006 7,038 968	7,562 6,494 1,068
合計		41,000	34,727

【計 41,000 千円 (事業活動収入対比 19.4%)】

〔Ⅲ〕基本金および引当特定資産の組入

《神戸学院大学》

1. 基本金の組入

(1) 第2号基本金 (5億円)

キャンパス整備資金として、2020年度～2021年度に各5億円、2022年度に15億円を組み入れる予定です。

2. 引当特定資産の組入

(1) 教育研究環境整備引当特定資産 (5千万円)

教育研究環境の整備に対応する積立金として、2018年度～2022年度に各5千万円ずつ、累計2億5千万円を目標に積立を行うこととしています。

以上

【認証評価における指摘事項への対応】

本学は、2017年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審し、同協会の定める大学基準への適合が認定されました。その際、指摘を受けた努力課題と改善勧告については、改善報告書にとりまとめ、2021年7月末日までに同協会に提出いたします。

（努力課題）

○ 教育内容・方法・成果

教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

総合リハビリテーション学研究科の教育課程の編成・実施方針が、修士課程と博士後期課程で区別されていないため、課程ごとに定めるよう改善が望まれると指摘を受けましたが、指摘を受けた研究科では、既に対応を終えています。

○ 教育内容・方法・成果

教育課程・教育内容

法学研究科及び人間文化学研究科の博士後期課程は、リサーチワークにコースワークを適切に組み合わせているとはいえないため、課程制大学院制度の趣旨に照らして、同課程にふさわしい教育内容を提供することが望まれると指摘を受けましたが、指摘を受けた研究科では、既に対応を終えています。

○ 教育内容・方法・成果

教育方法

・経済学研究科博士後期課程では、在籍学生がいないため非開講となっている科目のシラバスが作成されていないので、改善が望まれると指摘を受けましたが、指摘を受けた研究科では、既に対応を終えています。

・1年間に履修登録できる単位数の上限について、総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科では、1年次の前期・後期とも29単位と高く、2年次の前期では、29単位と設定されている。2年次の後期からコース分けがあり、これを受けて社会福祉士コースでは、2年次の後期から4年次の後期にかけて各学期とも29単位と高い。また、編入学生について、法学部法律学科では前期・後期とも2年次では34単位、3、4年次では32単位、経済学部経済学科では3、4年次において前期・後期とも28単位、経営学部経営学科では、前期・後期とも2年次では26単位、3、4年次では30単位と高いので、単位制度の趣旨に照らして、改善が望まれると指摘を受けましたが、指摘を受けた学部では、既に対応を終えています。

- ・薬学研究科において、研究科独自の教育の観点に特化したFD活動が行われていないので、改善が望まれると指摘を受けました。これを受け、2021年度から薬学研究科主催のFD講演会など行う予定です。

○ 教育内容・方法・成果

成果

法学研究科修士課程及び博士後期課程、栄養学研究科修士課程、薬学研究科博士課程、食品薬品総合科学研究科博士後期課程において学位論文審査基準が明文化されていないので、課程ごとに『大学院履修要項』などに明記するよう、改善が望まれると指摘を受けました。これを受け、指摘を受けた研究科では、既に対応を終えています。

(改善勧告)

○ 教育内容・方法・成果

教育方法

法学研究科博士後期課程、栄養学研究科修士課程及び食品薬品総合科学研究科博士後期課程において、研究指導計画が策定されていないので、研究指導、学位論文作成指導を研究指導計画に基づいて確実に進めるよう指摘がありました。これを受け、指摘を受けた研究科では、既に対応を終えています。

以 上